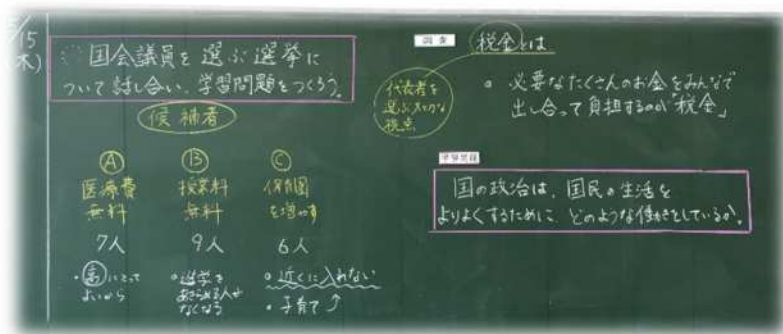


令和7年度

# 租税教育実践発表会資料



石巻市立石巻小学校

教諭 阿部 辰朗

## 1 はじめに

本校は、明治6年6月4日(1873年)に開校し、開校以来、歴史と伝統を重んじた教育活動を進めてきた。昭和30年代には児童数が1800名を超える年度があったが、市周辺部の住宅団地の造成、東日本大震災の被害等により児童数が年々減少していった。平成27年度に門脇小学校と統合し、本年度の児童数は238名、学級数は13学級となっている。

学区内には裁判所、検察庁などの官公庁が所在している。山の手地区には市図書館や市総合体育館、県立・市立高等学校、中学校、私立幼稚園などの文教施設、また、学校周辺には古くからの商店街があり、教育環境に恵まれている。

本校は、「よく学び、心身共にしなやかで、たくましい児童の育成を図る」を学校教育目標に掲げ、「明るく、たくましい児童」「正直で、思いやりのある児童」「自分の意志と力で行動する児童」「根気強くやり遂げる児童」「自ら学び、深く考える児童」を目指す児童像としている。また、「知育(あたまそだて)」「徳育(こころそだて)」「体育(からだそだて)」の三つが調和する教育課程を編成し、それらの根本を支えるものとして、「食育(いのちそだて)」を位置付けている。

### 【校訓五箇条】

知・徳・体の調和のとれた児童の育成を目指し、日々人間として成長していくことを願い、本校第11代校長：錦織玄三郎先生が明治39年に制定した「校訓五箇条」を継承し、本校の教育活動の柱としている。



- 一 げんきよくせよ (心身共に健康であること)
- 一 まじめにせよ (勤勉であり、誠実であること)
- 一 ひとりでせよ (自主的・自律的であること)
- 一 よくこらえよ (忍耐強くあること)
- 一 しかとおぼえよ (学業に打ち込むこと)

(明治39年4月1日制定・平成17年4月1日復活)

## 2 児童の実態

本校の6学年の児童は、生活経験やテレビ等の情報から、「消費税10%」「食品の消費税は8%」「軽減税率」「増税・減税」など、身の回りにある身近な税に関する言葉を知っている。また、税金が私たちの暮らしを支えていることを知っている児童が多い。一方で、消費税以外の税金の種類や、税金が具体的にどのように使われているのかということについては十分に理解していない児童も多い。中には、「税金は無い方がいい」「消費税が無くなればいい」と話すなど、税金に対して否定的な思いを持つ児童もいる。

## 3 指導に当たって

以上のような児童の実態を踏まえ、税に対する基礎的な知識を身に付けさせるだけでなく、税金の集め方や使われ方に関心を持ち、主権者として社会の在り方を主体的に考える意識を育てていきたい。

そのために、次の4つの手立てを講じていく。

### 【手立て①】 税の意義と役割について捉えさせる事前学習

憲法で定められている私たちの権利を学び、生活の安定と向上のための公共的事業の重要性を知ること、その財源となる税金の必要性について理解させる。

### 【手立て②】 税に関する基礎的な知識の定着を図る

税金の集め方や使われ方を調べ、税金についての基礎的な知識の定着を図る。

【手立て③】 学びを深めるためのゲストティーチャーの活用

石巻税務署、石巻法人会よりゲストティーチャーを招き、租税教室を行うことで、消費税以外の税の種類や具体的な税率などについての学びを深める。

【手立て④】 税についての学びと関連付けた事後学習

「税に関する絵はがきコンクール」に取り組むことで、税を大切にしようとする気持ちを育む。

4 指導計画（2時間扱い）

時 間	学習内容	指導上の留意点	評価規準
事前学習	動画の視聴 ・租税教育教材「マリンとヤマト不思議な日曜日」(国税庁動画)を視聴する。	○租税教育教材を視聴させ、税の意義と役割について捉えさせる。 【手立て①】	
1	授業 実践授業Ⅰ 「選挙のしくみと税金の働き」 ・選挙で代表者を選ぶ際に、税金の集め方や使い方が大切な視点となることを考える。 ・国民の代表である国会議員を選ぶ選挙について気付いたことや疑問に思ったことを話し合い、学習問題を立てる。	○税金の集め方や使い方が、選挙で代表者を選ぶことと深く関連していることに気付かせる。 ○投票率が低下していることに気付かせ、選挙の役割や重要性について考えさせる。 【手立て②】	○選挙で代表者を選ぶことと税金の集め方・使い方のつながりについて考え、表現することができたか。 【思考・判断・表現】
2	租税教室 実践授業Ⅱ 「租税教室」 ゲストティーチャー： 石巻法人会女性部会 高橋 一美 様 石巻法人会青年部会 山下 英朗 様	○身近な「税」について関心を持たせ、私たちの暮らしと税金との関係について理解させる。 【手立て③】	○私たちの暮らしと税金が密接に関わっていることを理解しているか。 【知識・技能】
事後学習	税に関する絵はがきコンクール	○授業で学んだことを絵はがきで表現させる。 【手立て④】	

## 5 実践

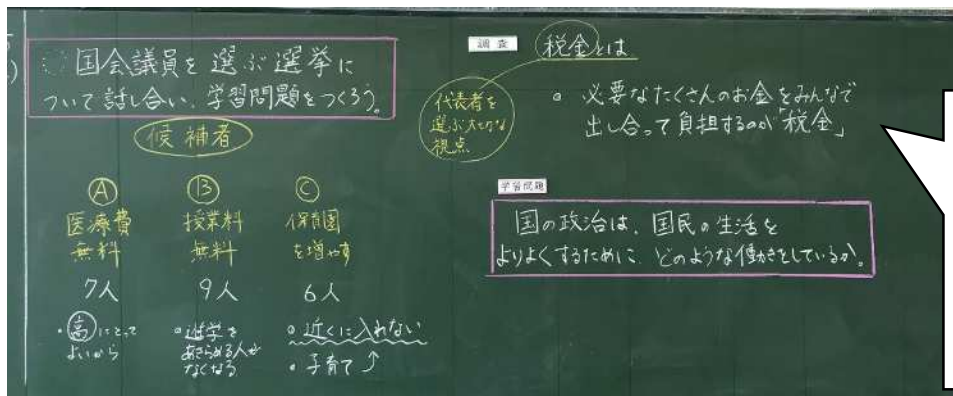
### (1) 税の意義と役割について捉えさせる事前学習

「マリンとヤマト不思議な日曜日」(国税庁動画)を事前学習として視聴した。親しみやすい内容だったこともあり、興味を持って見る児童が多かった。主人公が望みを話す場面では、「税金の無い世界」をお願いした瞬間、「え、大変なことになるんじゃない…」とつぶやく児童もいた。その後、税金の無い世界で主人公が混乱する場面を見終えると、「税金が無くなったら大変なことになる」「税金は大切だ」と話す声が聞かれた。事前学習を通して、税の意義と役割について考えさせることができ、税金が私たちの生活を支えているということを実感させることができた。

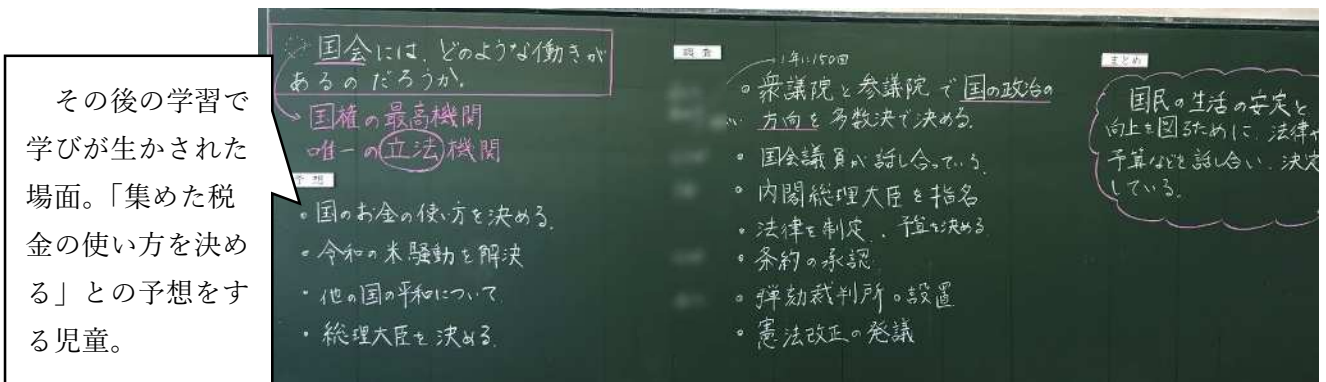


### (2) 税に関する基礎的な知識の定着を図る

「国の政治のしくみと選挙」の単元の導入で、代表者を選ぶ際の大切な視点の一つが税金であることを取り上げた。児童は、私たちの生活や社会をよくするために国や都道府県、市町村が公共サービスを行っていること、また、それらに掛かる費用が税金で賄われていることを調査しながら学び、税金についての理解を深めることができた。



税金の集め方や使われ方について個別学習で調査をし、全体共有した後、児童が考えた税金の説明。



### (3) 学びを深めるためのゲストティーチャーの活用

石巻法人会の方々による「租税教室」から、所得税や自動車税、法人税など、様々な税があることを学んだ。児童は、消費税以外にも多くの税があることや、税収として70兆円ものお金が集まることに驚き、意欲的に話を聞いていた。最後に、一億円のレプリカに触れ、児童は実際のお金の重みと大切さを改めて実感していた。租税教室を通して、税についての理解が深まったと考える。児童の振り返りには、私たちの暮らしと税金との関係について考える記述や税の大切さを書いた感想が多く見られた。

【児童の振り返りの記述】

日本にはたくさん税があって、その税の使い道や、  
税の役割などを知ることができた。そして税の大  
切さを知ることができた。

税金があるおかげでみんなが安心してくれているので、  
もし、税金がなかったら、わたしたちの生活は大変だと思  
いました。

物を買う時に表示されている値よりも少し高いお金を  
はらうのはなんでだろうと思っていましたが今日の学習  
で「住みやすい国にするためには、はらっている事に気付いて、  
自分のお金が社会に役立てられているんだと思い、うれ  
しかったです。 > 気付いてよかったと思います。

【租税教室の様子】



#### (4) 税についての学びと関連付けた事後学習

税に関する絵はがき作りでは、どの児童も税に対する思いを一生懸命に表現していた。租税教育や社会科と往還した一連の学び、身に付いた知識・理解が存分に表れた作品が多く生まれた。



【児童が楽しみながら並べた「税」の字と、税に関する絵はがきの作品】

#### 6 実践を終えて

今年度の租税教育は、租税教育教材「マリンとヤマト不思議な日曜日」を活用した事前学習や、ゲストティーチャーを招いての「租税教室」、社会科や他教科と関連させた学習など、「税」を視点に、教科横断的な学習活動を展開することができた。学習後には、児童から、「税金は大切なもの」「税金があるおかげで安心して暮らせる世の中になっている」「社会に役立てられている」という発言を多く聞くことができ、私たちの暮らしと税金が密接に関わっていることを理解した様子が多く見られた。租税教育の実践や社会科・他教科と往還した一連の学習活動が、児童の税についての基礎的な知識の定着、理解の深まりにつながったと考える。

今後も、社会科の学習で税に関する内容を取り上げながら、知識・理解を深めさせていき、主権者として社会の在り方を主体的に考える意識を育てていきたいと考える。